

## 2 研究の実際

### (1) 文献等による研究

#### ア 発達段階に応じた人権教育の在り方

『人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]』には、大きく幼児期、小学校 1～3 学年、小学校 4～6 学年、青年初期（中学校段階）青年中期（高等学校段階）のそれぞれの発達段階に即した指導を展開することが重要であるとしています。青年中期(高等学校段階)では、以下のよう(1)に示されています。

生活空間が飛躍的に広がり、それに伴って情報も生活体験も格段に拡充する。個人差はあるが、抽象的な概念操作もできるようになり、複雑な思考も可能になる。知的にも情緒的にも人間や社会に対する認識が深化する可能性のある時期である。

また、社会の一員として、主体的に自立した存在として生きるための方策を真剣に模索し始める。他者の存在を寛容に受容し、多様な価値観をお互いに認め合って生きていかなければ成立しない一般社会の在り方を、知的にも体験的にも認識できるようになる。また、法教育の観点からも、社会的規範の相対性と「人権」の持つ普遍性を理解できるようにもなってくる。

この時期には、様々な人権教育が可能である。しかも、多くの生徒にとって系統的・計画的な人権学習のための最後の機会となることも考えなければならない。あらゆる場と機会をとらえて、人間としての生き方を真剣に考えさせ、就労観を育成するキャリア教育等との連動も考慮に入れて、積極的に人権教育に取り組むべきである。

文部科学省 『人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]』 平成 20 年 3 月 p. 31

#### イ 興味・関心を活かした人権教育の在り方について

『人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ (平成 20 年 3 月)]』に、以下のよう(2)に示されています。

人権教育の学習教材を選定・開発するに当たっては、まず何よりもその学習の目的が明確化されなければならない。その教材から、子どもたちにどのような知識や技能を身に付けさせたいのか、子どもたちの中にどのような意識や態度を育みたいのかが、具体的に設定されている必要がある。

その上で、人権が尊重される社会づくりを自らの問題としてとらえ、自ら考えることができるようにするなどの教育効果を高めるため、身近な事柄を取り上げたり、児童生徒の興味・関心を活かしたりするといった教材の内容面での創意工夫を行う。むろん、このことは、身近でない課題を取り上げないということを意味するのではない。子どもたちの日常を超えた、社会全体や地球全体に関わる課題を取り上げることによって、逆に身近な課題についての認識が深まり、人権問題と自らとのつながりが見えてくることも考えられる。

文部科学省 『人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]』 平成 20 年 3 月 p. 25

このことにより、人権教育の教育効果をより上げるためには、教師側が、生徒の身近な事柄や興味・関心を活かしたりするなどの創意工夫が必要であるといえます。

## ウ アンケートを活用した授業づくり

小川隆史は、LHRを使った（＝担任も含めた）人権学習をつくり上げていくために、次のような問題意識での人権教育の実践を提案しています<sup>(3)</sup>。

- (1) 担任に大きな負担を求めない。  
 (2) 勝算（生徒の好反応＋視点や考えの深まり）の見える取り組みを提案する。  
 (3) 人権の取組を通して担任が「おいしい目」をし（＝生徒からの信頼を得る）、担任自身も学び成長できることを意識する。

2018 年人権教育指導者養成研修（小川隆史）講義資料 p. 1

人権・同和教育推進上の問題点として「研修時間が確保できない」「活用できる教材が少ない」という意見がありましたが、時間のなさ、「活用できる」教材のなさ、などがまずは教師側が人権教育を積極的に行えない原因の一つになっています。

そこで、アンケートを採ることと、そのアンケートの結果のテーマを基に感想を交流するなど生徒がより主体的になりやすい活動を中心とした授業の実践案をつくります。アンケートを取り、テーマを決定する際には、アンケートの結果や、クラスの実態などから考えて作成します。

授業の流れは、どのようなテーマでも、そのテーマに沿う映像や本などの資料を基に、感じたことや考えた事をグループや全体で交流する活動を中心に行います。

## (2) 実態調査

ア 授業を行う前に人権教育についての意識を把握するために資料 1 の調査を行いました。

## 人権教育アンケート

## 1 年（ ）組

このアンケートは、皆さんの人権教育についての意識を把握するためのものです。分かる範囲でお答えください。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

1 今後、学習したい人権問題は何ですか、3つ選んで、○をつけてください。

- |                  |                 |                    |
|------------------|-----------------|--------------------|
| ア 同和問題（部落差別）     | イ 女性の人権問題       | ウ 子どもの人権問題         |
| エ 高齢者の人権問題       | オ 障害のある人の人権問題   | カ 外国人の人権問題（多文化共生）  |
| キ HIV 感染者等の人権問題  | ク ハンセン病患者の人権問題  | ケ 犯罪被害者の人権問題       |
| コ インターネットによる人権問題 | サ アイヌの人たちの人権問題  | シ ホームレスの人たちの人権問題   |
| ス 性の多様性に関する人権問題  | セ 拉致問題に関する人権問題  | ソ 刑を終えて出所した人の人権問題  |
| タ 人身取引（トラフィッキング） | チ 原発事故に起因する人権問題 | ツ さまざまな災害に起因する人権問題 |
| テ その他（ ）         |                 |                    |

2 小学校から現在までに学んだ（体験した）人権に関する学習で、印象に残っている言葉、話、活動・エピソード等があれば教えてください。

※提供していただいた個人情報については、研究以外の目的に使用しません。

資料 1 授業前に実施した「人権教育アンケート」

イ 実際に検証授業を行う高校の1年生を対象（190人）にアンケートを実施しました。その結果は表1のようになりました。

表1 アンケート結果

1 今後、学習したい人権問題は何ですか、下より3つ選んでください。

	1組	2組	3組	4組	5組	合計
ア 同和問題(部落差別)	6	5	11 ②	6	4	32
イ 女性の人権問題	5	10	4	4	8	31
ウ 子どもの人権問題	14 ②	14 ①	14 ①	9 ③	8	57
エ 高齢者の人権問題	2	6	2	1	4	15
オ 障がいのある人の人権問題	9	11	7	5	8	40
カ 外国人の人権問題(多文化共生)	9	5	9	9 ③	7	39
キ HIV感染者等の人権問題	1	2	2	3	6	14
ク ハンセン病患者の人権問題	1	0	0	4	4	9
ケ 犯罪被害者の人権問題	4	5	6	5	9 ③	29
コ インターネットによる人権問題	11 ③	11	7	6	11 ②	46
サ アイヌの人たちの人権問題	0	3	2	4	3	12
シ ホームレスの人たちの人権問題	5	4	8	7	9	33
ス 性の多様性に関する人権問題	1	3	8	4	2	18
セ 拉致問題に関する人権問題	9	4	2	8	5	28
ソ 刑を終えて出所した人の人権問題	15 ①	13 ②	9 ③	16 ①	14 ①	66
タ 人身取引(トラフィッキング)	11 ③	12 ③	5	11 ②	4	43
チ 原発事故に起因する人権問題	1	3	4	3	5	16
ツ 様々な災害に起因する人権問題	7	3	5	5	9 ③	29
テ その他	1	1	1	0	0	3

※①、②、③は各クラスで数が多い項目3つ

2 小学校から現在までに学んだ人権に関する学習で、印象に残っている言葉、話、活動・エピソード等（抜粋）

- ・小学校で手足が不自由な方が学校に来てお話してくださいました。
- ・障がいのある人たちが、店や学校などで差別されている。
- ・小学校の時目の不自由な方が来られて、暮らしの工夫などをたくさん教えていただき、勉強になった。
- ・人権はみんなに与えられる平等な権利
- ・差別は一度するとそれがずっと残ってしまうということ
- ・部落差別          ・人種差別          ・ハンセン病についての差別          ・女性の人権問題
- ・原爆被害にあわれた方の話          ・戦争に関する人権問題          ・アンネの日記
- ・北朝鮮で、日本人が拉致されている話
- ・東日本大震災で原発の被害にあった人が差別されたという話が印象に残っている。
- ・インターネットを使ったいじめのこと          ・ふわふわ言葉やちくちく言葉
- ・いじめも人権侵害であるという授業を受けたことがある。

(3) 本研究における考え方や取り入れる具体的な手立て

ア アンケート結果（前頁表 1）から

質問 1 の結果より、1 番多かった項目は「刑を終えて出所した人の人権」、2 番目は「子どもの人権」、3 番目は「インターネットによる人権問題」であり、他にも「人身取引（トラフィッキング）」や「犯罪被害者の人権問題」、「様々な災害に起因する人権問題」などが上位に挙がっているクラスもありました。質問 2 の「印象に残った人権に関する学習」では出てこなかった項目が「学習したい人権課題」に入っている傾向が見られました。実際に当事者の方の講演や、現実起きた事件に関する話等が印象に残っている傾向もありました。

イ 人権学習のテーマ決定

アンケートの結果（前頁表 1）より、今回の人権学習の授業テーマは「刑を終えて出所した人の人権」にしました。理由は、第 1 に、質問 1 の結果より生徒が学習したい人権項目の中で最も多く、5 クラス中 3 クラスで 1 番多かった項目だったからです。第 2 に、質問 2 の結果より印象に残っている項目として一つも挙がっておらず、知らないからこそ、多くの生徒にとって、知りたい人権課題になっていると考えられるからです。



(4) 授業実践


ア 本時の目標

- ・「刑を終えて出所した人」の人権に関する「現状」や「人権を支援し、擁護するために活動している機関等」について知る。（知識的側面）
- ・「刑を終えて出所してきた人」の社会復帰の為に「主体的に関与」している人から、「他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を養い、自分の今後の考えや行動に触れることができる。（価値的・態度的側面、技能的側面）
- ・話し合い活動や感想文の記入などを通して、他人の話を「能動的に傾聴」し、考えや気持ちを適切かつ豊かに表現し、また、的確に理解することができるような伝え合い、分かり合うためのコミュニケーションの能力を養う。（技術的側面）

イ 授業の実際

	学習活動	教師の働き掛け、発問等
導入	1 本時の学習の目的を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に自己紹介、アンケート記入のお礼をした。</li> <li>・本時の学習の目的を簡潔に話した。</li> </ul>
	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;">                     1 アンケートの結果を知る。                      2 興味のあるテーマから人権について考える。                 </div>	
5分	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <b>活動 1</b> 「人権」の言葉を使わずに人権を説明しよう。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒にはリラックスして考えてもらった。</li> <li>※生徒の活動後に授業者はどう考えたかを話した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記入する。（30 秒）</li> <li>→ペアトークをする。（1 分 30 秒）</li> <li>→2 人発表する。</li> </ul>	

	 <p>【生徒の意見を聞いている様子】</p>	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人が人として生きるための権利</li> <li>・人が生まれながらにもっている権利で誰からも奪われたり傷つけたりされないもの。</li> <li>・人間がみんな安全に安心して暮らせるということ。</li> </ul> </div>
<p>展開</p> <p>35分</p>	<p>2 アンケートの結果を見て、読み取れることを知る。</p> <p>3 「刑を終えて出所した人の人権」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「刑を終えて出所した人の人権」についての説明を聞く。</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>活動2</b> 「刑法犯、検挙人員中の再犯者人員・再犯者率の推移」（H29、法務省）を見て、読み取れることを考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「刑法犯、検挙人員中の再犯者人員・再犯者率の推移」の資料を見て、読み取れることを考え、ワークシートに記入する（1分）。</li> <li>→周りの人たちと意見の確認をする。（2分）</li> <li>→全体の前で2人発表する。</li> </ul>  <p>【意見を確認している様子】</p> <p>4 草刈さんが出ている「職親プロジェクト」をテーマとしたニュース映像を視聴する。（6分）</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>活動3</b> 「草刈さんが、『職親プロジェクト』に参加している心情」や、映像をみて感じたことなどを考え、それを周りのみんなで話し合おう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴した映像を基に、周りの人たちと草刈さんの心情や感じたことを、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれ、プレゼンテーションソフトや配布プリントにまとめた資料を使いながら、結果を報告し、そこから読み取れることを簡潔に説明した。</li> <li>・プレゼンテーションソフトを使い、簡潔に説明した。</li> <li>・話し合わせた後、2人ほど意見を出させ、教師で読み取れることを説明した。</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年々、検挙人数自体は減っているが、再犯率が上がっている。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの状況を見ながら、「進んでない班」に「お互いの感想を読んでみよう」などと伝え活発な話し合いを促した。</li> <li>・話し合ったことなどを全体で発表させた。</li> </ul>

	 <p>【話し合っている様子】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再犯者を減らすことが、妹への供養になるだろう。</li> <li>・妹を殺された草刈さんはもうこのような事件が起きないように、再犯者率を減っていくことを願っている。</li> <li>・草刈さんが言っていた職がない、お金がないから犯罪を犯すというのは正しいのかなと思いました。</li> </ul>
<p>まとめ 10分</p>	<p>5 本時の学習内容をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者の話から「今回の人権課題」を学んで、何を感じ、学んだかを確認する。</li> <li>・ワークシートに本時の感想を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの日常生活につなげることができるよう、活動の振り返りと授業者のまとめを行った。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・草刈さんが「悲しみ」を胸に抱きつつも、少しでも同じような悲しみをもつ人を減らしたいという気持ちや行動に気付いて欲しい。</li> <li>・いろいろな人権課題を知り、考えることが今の皆さんにとっては将来差別の現場に立った時にしっかりと考え、行動できるよう、いわゆる「予防注射」としての人権教育になり、差別の現実苦しんでいる人にとっては学び、知ることが「特効薬」としての人権教育になり得、明日への活力になるだろう。これからも折りに触れ、人権について学んで、考えて欲しい。</li> </ul> </div>

## (5) 授業実践における手立ての有効性の考察

生徒の興味・関心のある人権課題を基に、映像を使った教材の視聴を1回、話し合いを3回行い、生徒自身の対話的な活動を意識した授業を実践しました。できるだけ教師の説明を簡潔にするなど、生徒自身が考え、活動する時間を確保しました。3回の話し合い活動においては、生徒に「飽き」がこないよう、導入では「アイスブレイク」を、展開では、「データから読み取り、確認するもの」と「映像を見て、感じたことをそれぞれ言い合えるもの」というように同じ活動にならないよう工夫をしました。人権学習の際、どのテーマを扱っても当事者・関係者がいるかもしれない、という視点を忘れずに、客観的なデータを使用することに気を付けました。また、「差別の現実」を知るだけでなく、展望のある映像や授業の流れを意識しました。生徒の興味・関心のある人権課題を取り上げたことで、周りの生徒同士でスムーズに話し合い活動が進められ、他の生徒の考えを聞いたり、自分の考えを周りの生徒に伝えたりすることができていました。

授業の最後の感想については、全員が自分の考えを記述できており、**資料2**の下線部のように、人権課題を自分の問題として捉え、自分の生き方について考えをもつことができていました。

- ・今日の授業を受けて犯罪者に対する印象が変わりました。その中で一番印象に残っていたのは、草刈さんの職親プロジェクトです。家族が被害者なのに、加害者のためにすることはとてもすごいと思いました。
- ・今日の話聞いて、人権についてもっと深く考えるべきだと思いました。私は刑を終えて出所した人に偏見を持っていました。その人たちの中には心を改めてやり直したい、償いたいと思っている人もいないことを考えていませんでした。見る目を変えるべきだと思いました。
- ・私は今日の講座を受けるまで、過去に刑務所にいた人は仕事につかないほうがいいのではと思っていました。しかし、刑務所を出た人にも人権があり、更生した人がいて、その人たちのためにプロジェクトをしている草刈さんのような人がいて、しっかり考えていかなければならないと思いました。
- ・草刈社長が再犯者の増加を止める働きをしていることに対し、自分もこういう寛容な人になりたいと思いました。

## 資料2 生徒の授業の感想の一部

このことから、生徒の興味・関心のある人権課題を基にした授業実践を行うことで、人権課題を自分の問題として捉えることができるようになり、自分の生き方について考えをもつ生徒の姿につながったと考えます。

## (6) 実態調査の結果を基にした手立ての有効性についての考察

授業前の実態調査で、1 番多かった項目となった「刑を終えて出所した人の人権問題」について、資料 3 の下線部のような、気になっていたことが知ることができてよかった、心の広い人になりたいなど、これからの生き方について考える感想もありました。

事前に採った人権教育アンケートから生徒の興味・関心を探り、その結果を基に人権学習のテーマを設定したことで、生徒は受身ではなく、進んで話し合い活動を行ったり、発表したりする姿が見られました。

- ・前のアンケートで私も「刑を終えて出所した人の人権問題」が一番気になっていたもので、今回この授業が聞いて良かったです。
- ・刑を終えた人はどうやって生活するのか前から気になっていたもので、今日の話はとても興味深かったです。刑を終えた人は社会にでると 1 度罪を犯した人というレッテルをはられるのが日本の今の現状です。過去は変えられないけど未来は変えられるのだから、そういう人を受け入れられるような心の広い人になりたい。

## 資料 3 生徒の授業の感想の一部

このことから、実態調査を基に人権学習のテーマを設定したことで、人権課題を自分の問題として捉え、自分の生き方を考えながら、主体的に取り組む人権学習の時間につながったと、推察できます。

## 《引用文献》

- (1) (2) 文部科学省 『人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕』 平成 20 年 3 月 p. 31、p. 25
- (3) 小川 隆史 『能動性を引き出す人権学習へのチャレンジ～高校における人権学習の「これまで」と「これから」～』 2018 年人権教育指導者養成研修講義資料 平成 30 年 7 月 18 日